

私ではなく神が

創世記四一章―36節

「聞くところによれば、あなたは夢の話を聞いて、解き明かすことが出来るそうだが。」ヨセフはファラオに答えた。「私ではありません。神がファラオに平安を告げられるのです。」(15、16)

3/
献酌官長が元の職場に戻って二年後、ファラオが不思議な夢を見ました。夢を解き明かすことのできる者が誰もいないとき、献酌官長はヨセフのことを思い出し、ヨセフならは夢を解き明かすことができるに違いないと進言しました。牢獄から呼び出されたヨセフとファラオの最初の会話が今日の聖句です。自分にその力があるのではなく、神が助けてくださるからこそ可能なのだと、全ての栄光を神に帰したのです。かつて父の家に行ったとき、兄たちに向かって得意顔で夢を明かしていたヨセフですが、神の訓練を受けて、謙って神を賛美する器に変えられていたのです。主は今も、全ての栄光を神に帰する器を求めておられます。私たちが主の働きのために用いられるようにするときも、ヨセフのように「私ではなく神が」と、ひたすら神の素晴らしさを指し示す者たちでありたいと願います。